

科目名	器質性構音障害			授業の種類	演習	講師名		
授業回数	7 (全15) 回	時間数	全30 時間	1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST2年 前期
【授業の目的・ねらい】 器質性構音障害とその背景にある疾病の知識と評価治療に関する知識や技能について理解する。 国家試験に向けて必要な器質性構音障害に関する知識を学び、さらに臨床に必要な理論と治療方法を修得できる。								
【実務者経験】 ・言語聴覚士として、大阪国際がんセンターでリハビリに従事後、大阪大学医学部附属病院で勤務 ・姫路市総合福祉通園センター・特定非営利活動法人こども発達サポートセンターなどで小児発達分野の言語聴覚療法に従事経験。								
【授業全体の内容の概要】 主に頭頸部癌術後の構音障害とその評価・リハビリテーションについて講義及びグループワークを行う。 器質性構音障害についての基本的事項を理解し、臨床に必要な治療知識・技術について講義する。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 頭頸部癌術後の器質性構音障害の要因及び、評価、訓練方法を理解できる。 国家試験に対応した知識を修得し、さらに臨床に必要な治療知識・技術をみにつける。								
回数	講義内容						準備物(教材)	
1	頭頸部の正常解剖について理解する						配布資料、教科書	
2	頭頸部癌の手術における解剖学的変化について理解する						配布資料、教科書	
3	器質性構音障害の評価について理解する						配布資料、教科書	
4	100音節発語明瞭度検査を学び、実施できる						配布資料、教科書	
5	器質性構音障害の治療、リハビリテーションについて理解する						配布資料、教科書	
6	チームアプローチについて説明できる						配布資料、教科書	
7	頭頸部癌の嚥下障害と構音障害の関わりについて理解する						配布資料、教科書	
8	器質性構音障害についての基本的事項について理解できる。						教科書・資料配布	
9	口唇・口蓋裂に伴う言葉の問題について理解できる。						教科書・資料配布	
10	鼻咽腔閉鎖機能と構音障害について理解できる。						教科書・資料配布	
11	口唇・口蓋裂言語の評価について理解できる。 第1回 小テスト実施						教科書・資料配布	
12	口唇・口蓋裂言語の治療について理解できる。						教科書・資料配布	
13	口唇・口蓋裂言語の治療について理解できる。						教科書・資料配布	
14	口唇・口蓋裂乳幼児期・幼児期の言語臨床について理解できる。						教科書・資料配布	
15	口唇・口蓋裂学童期・青年期の言語臨床について理解できる。 第2回小テスト実施						教科書・資料配布	
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 言語聴覚療法シリーズ8 器質性構音障害								
【準備学習・時間外学習】 授業内で修得した内容について復習する。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。								